

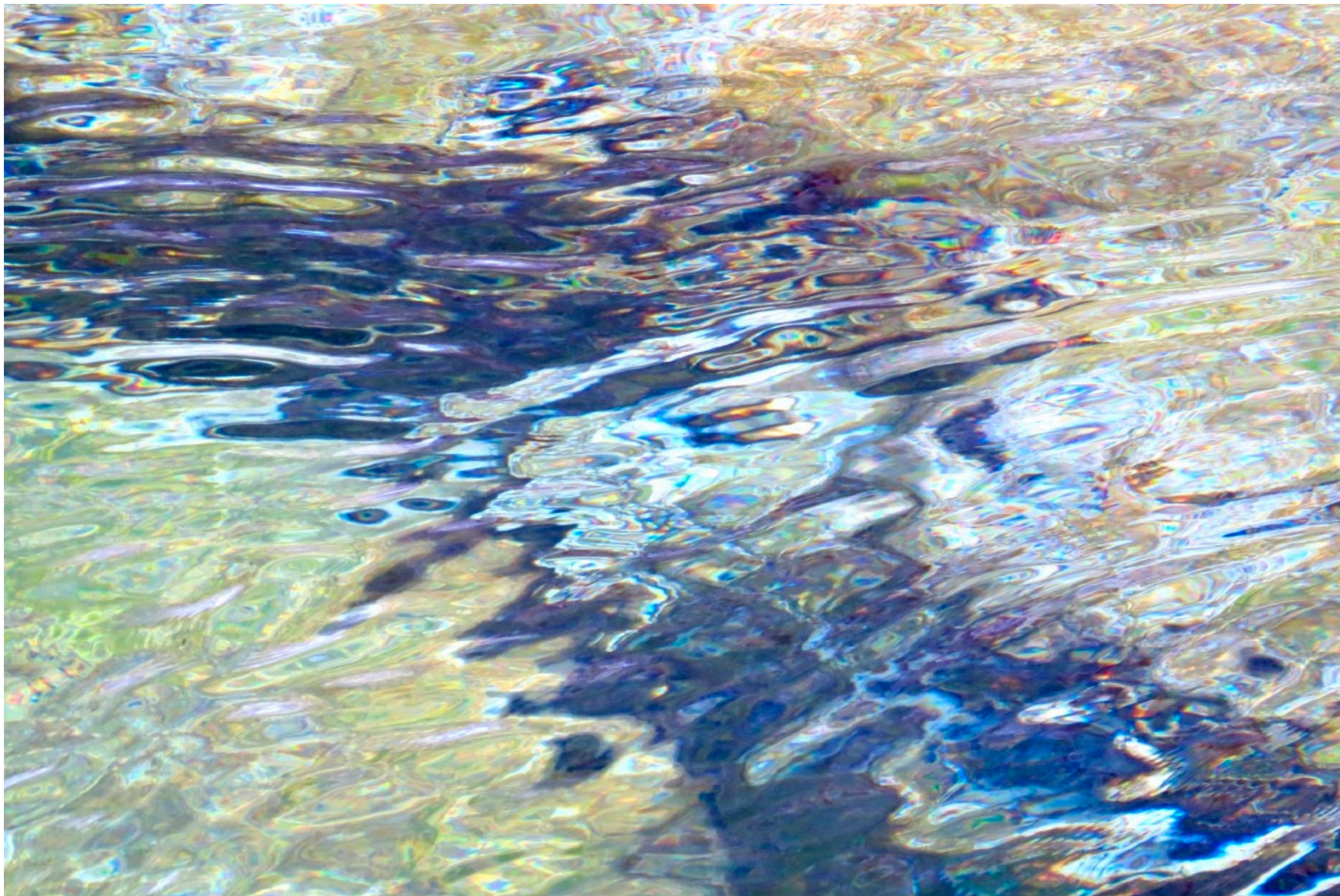
神秘学ポエジー 風遊戯
photopos
115

【神秘学ポエジー～風遊戯 第230集】 photo ヴァージョン

photopos 2851-2875

《2022.6.29～2022.7.23》

神秘学遊戯団



水のなかでは
泳げても
陸にあがれば
歩けない
ましてや
空など
飛べはしない

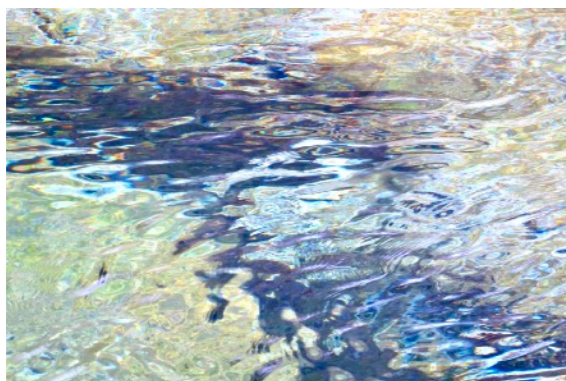
どこでも自由に
行き来できればいいのに

箱に入れるように
分けることはできても
箱と箱をうまく
つなげることができなかつたり
ましてや
箱と箱の境界を
どうすればいいかわからなかつたり

分けることと分けないことが
自在にできればいいのだけれど

頭では
考えることができても
それを伝えるのは
むずかしい
ましてやかたちにしようとすると
途方に暮れてしまう

どんな思いも自由に
かたちにできればいいのに



※愛媛県久万高原町・面河溪にて



感じすぎても
生きづらいが
感じなさすぎても
生きづらい

感じることの
なんとむずかしいこと

考えすぎても
生きづらいが
考えなさすぎても
生きづらい

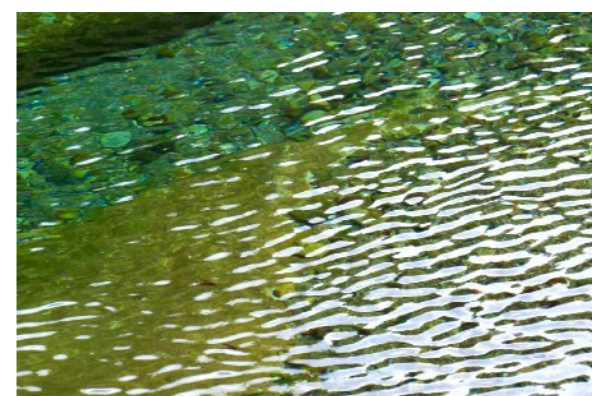
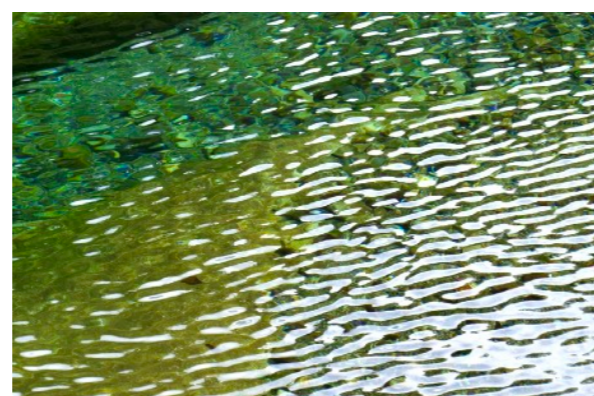
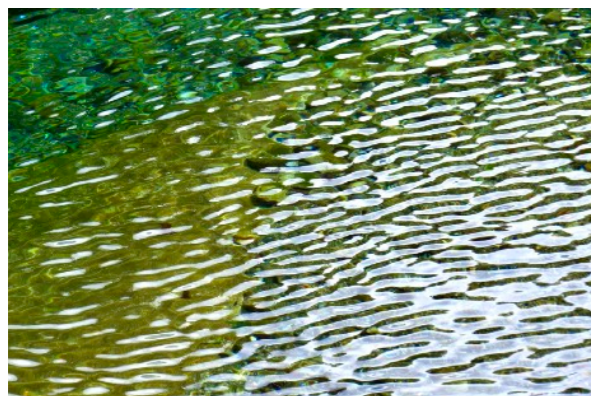
考えることの
なんとむずかしいこと

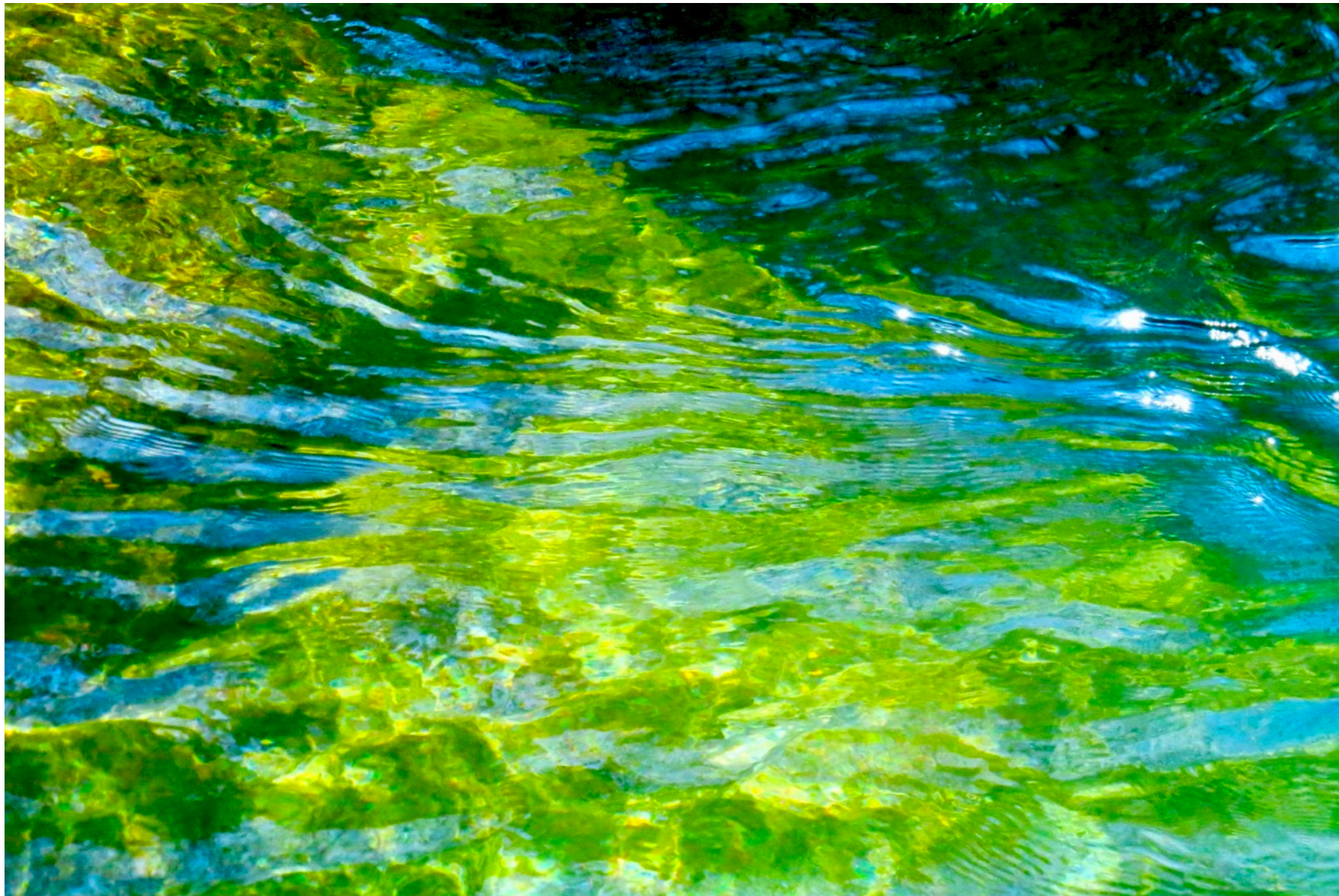
覚えすぎても
生きづらいが
忘れすぎても
生きづらい

記憶することの
なんとむずかしいこと

私すぎても
生きづらいが
私になさすぎても
生きづらい

私であることの
なんとむずかしいこと





新しい歌は
歌えるだろうか

新しい私が
新しく生きられるように

新しい心は
ひろがるだろうか

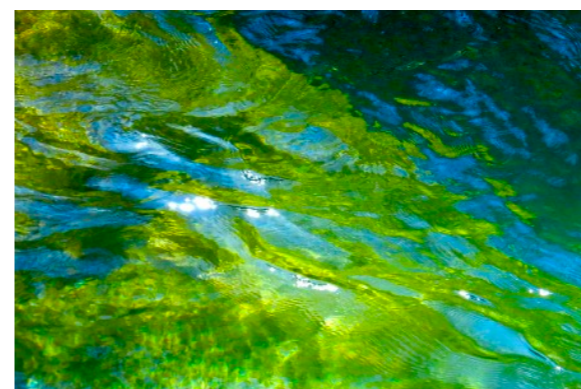
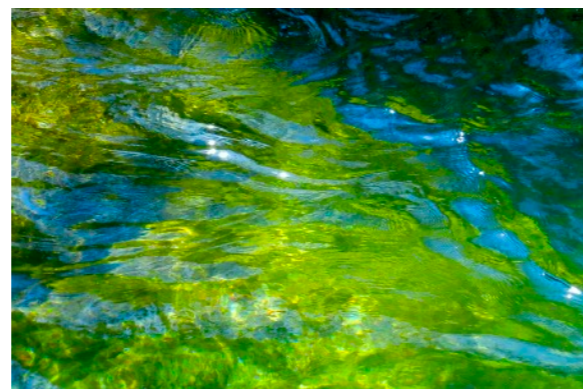
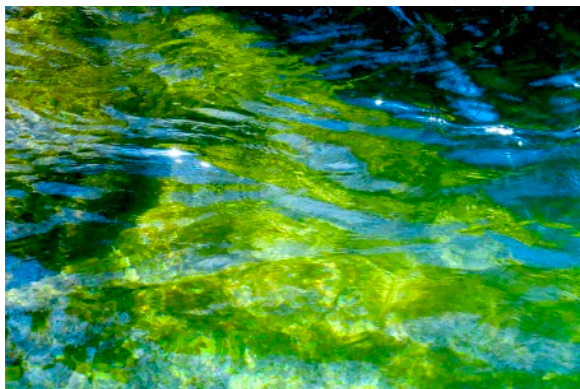
新しい私が
新しくひろがれるように

新しい意味は
生まれるだろうか

新しい私が
新しい意味を生み出すように

新しい神話は
語られるだろうか

新しい私が
新しい物語を語れるように



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて



未来が見えないのは
わたしのいまがそれを
つくっているところだからだ

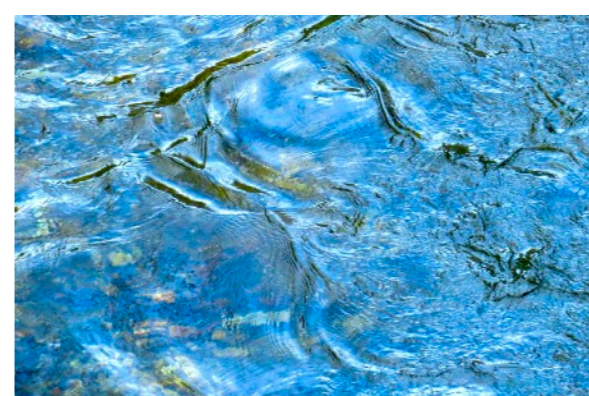
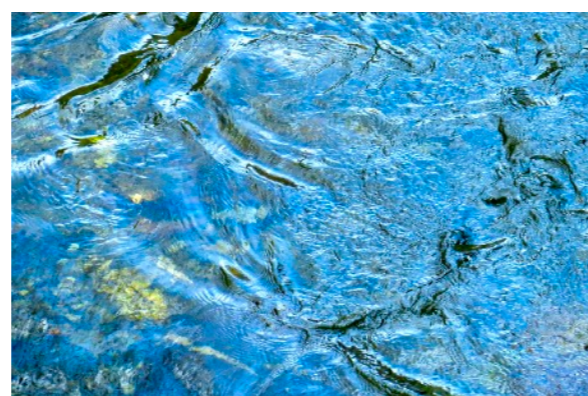
過去に戻れないのは
過去はいまのわたしに
なっているからだ

前に道がないのは
わたしが道だからだ
わたしが歩くと
そこに道はできる

道は変わりつづける
変わること
知らない世界と
つながることができる

知らない世界から
わたしに何かが届けられ
知らない世界へと
わたしは何かを届ける

私は歩き道になる
道となることで
私は変わり
世界は変わってゆく





それを
偶然とすることも
できるだろうが

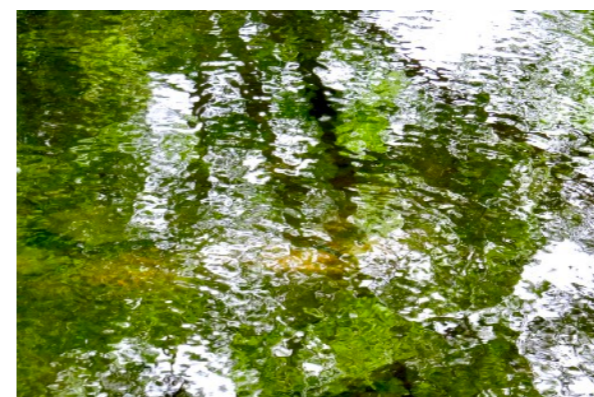
そこには
それなりの
原因の連鎖があり

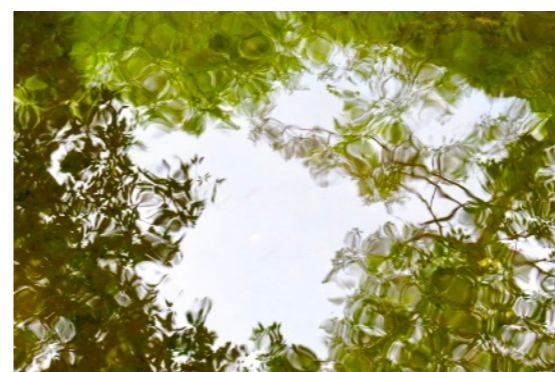
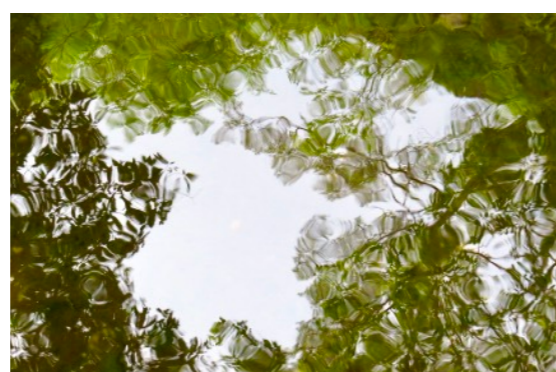
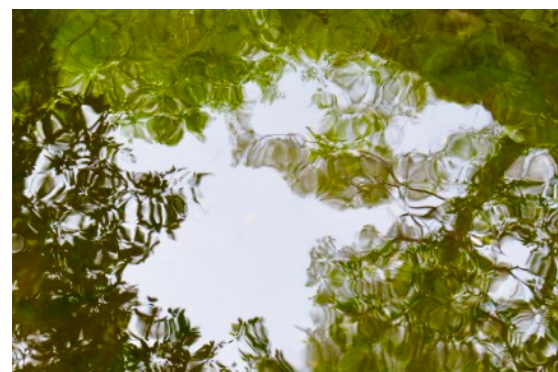
それを
必然とすることもまた
できるだろう

偶然か必然か
その問いは
おなじ不思議の場所から
立ち現れてくる

その場所にある
わたしの理由

それをこそ
時空と次元の連鎖のなかで
問いつづける
そのことで
見えてくるものがありはしないか





※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

この
わずかに
ひらかれた
ちっぽけな窓から

世界を
かいま見ている
わたしの魂よ

世界は
どんな姿をしているのか
見ることができますように

この
わずかに
与えられた
少しばかりの言葉で

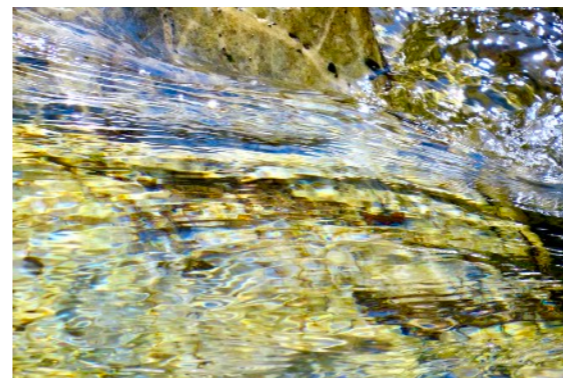
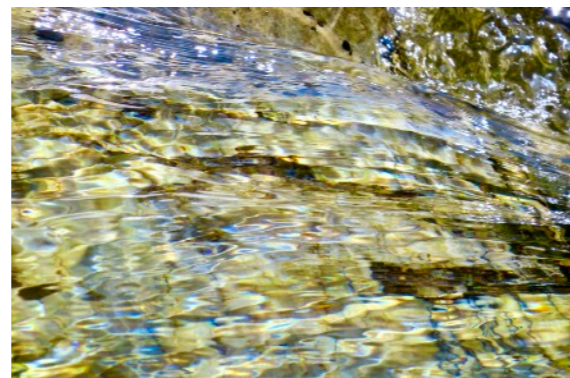
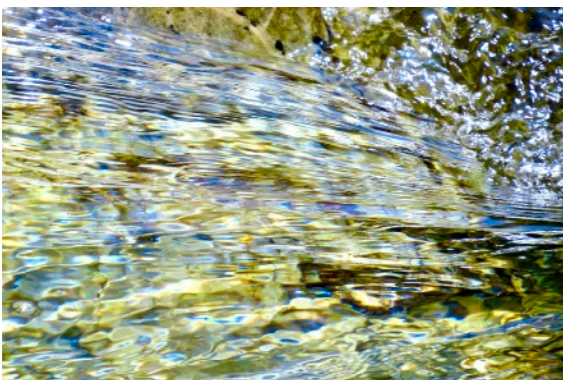
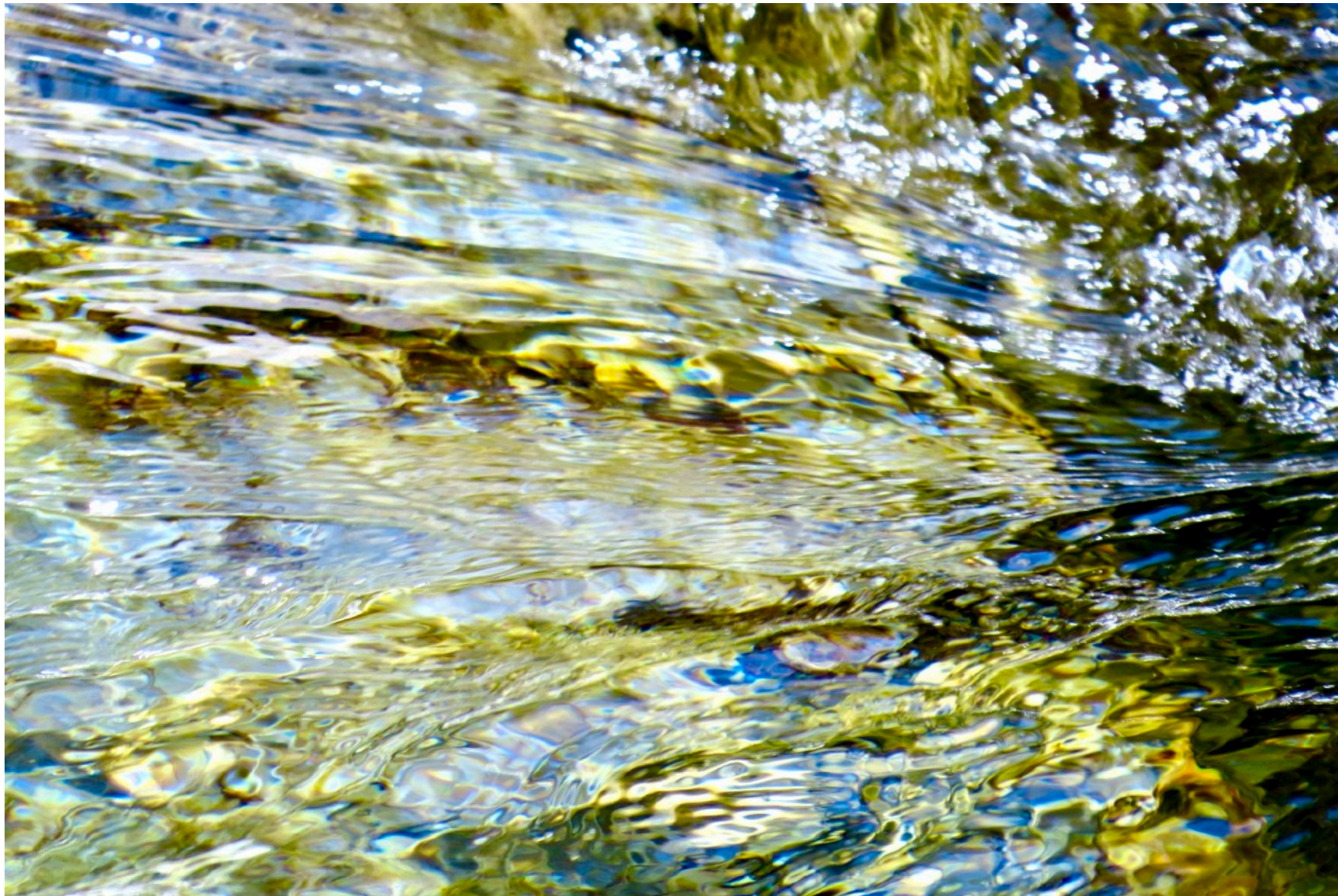
世界を
表現しようとする
わたしの魂よ

世界を表すことのできる
そんな言葉を
見つけることができますように

この
わずかに
聞きとれる
かぎられた音の響きで

世界と
共振しようとする
わたしの魂よ

世界を奏でている
そんな音楽を
聴きとることができますように



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

ふいに
異界は
ひらかれる

世界は
閉じてはいないから
ときに
その内と外のあいだが
ほつれて
異界への道となるのだ

道は
ただの道ではない
その道をゆくには
みずからを
供犠とせねばならぬ

ときに
異界のことばが
口をつき
異界を語りもするが

贅（にえ）となり
果てなき道を
くねくねとひとりたどり
変容してゆくのだ

そして
やがては
世界へと帰還することを
忘れてはならない

そのとき
己は新生し
世界もまた
あらたな姿で
あらわれてくるのだから



光を求めて
闇を知り

知を求めて
愚に気づき

夢を求めて
現に醒めて

永遠を求めて
刹那に生きて

心を求めて
からだを見つけ

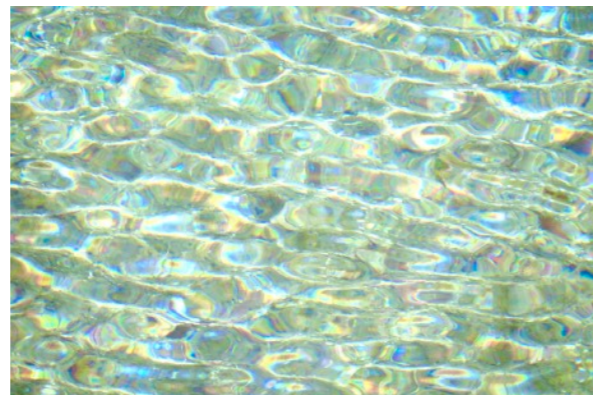
愛を求めて
憎しみに悶え

美を求めて
醜さに悩み

平和を求めて
争いに至り

生を求めて
死へと向かい

言葉を求めて
沈黙を選び

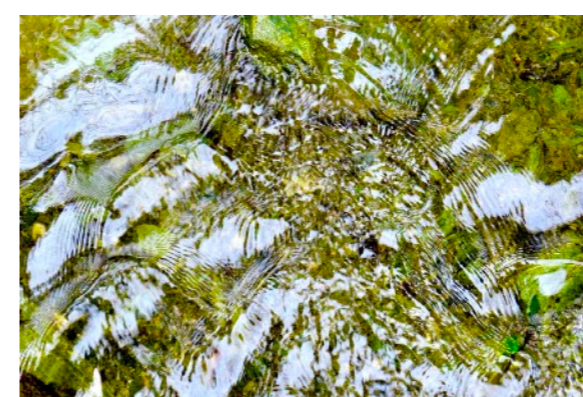
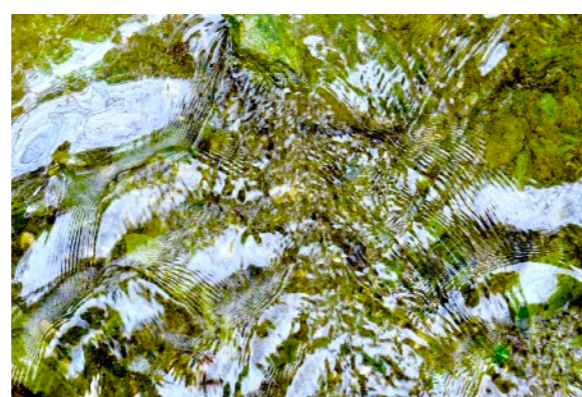
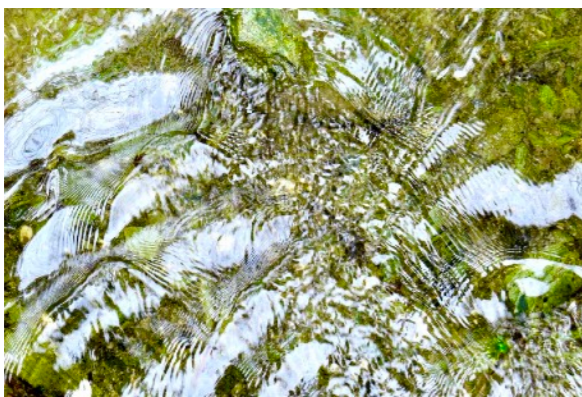




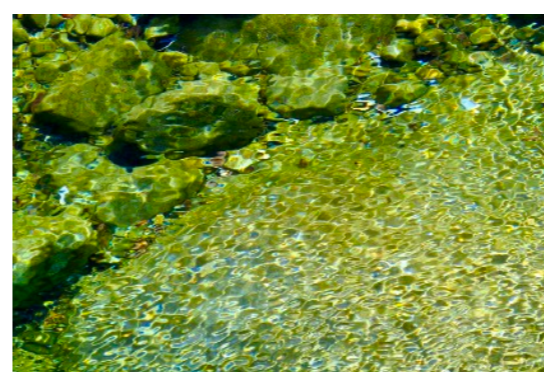
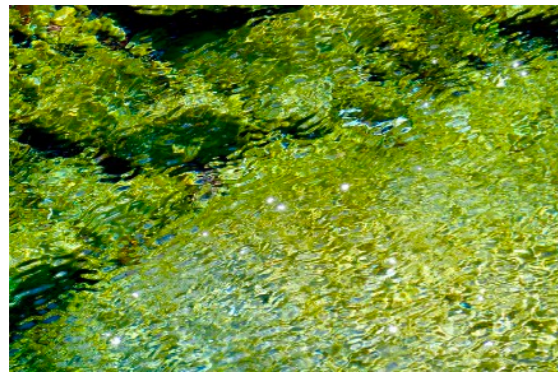
鳥の世界を
知ろうとすれば
鳥の世界を
みずからのうちに
もたねばならない
そこから
すべてははじまってゆく

水の世界を
知ろうとすれば
水の世界を
みずからのうちに
もたねばならない
そこから
すべてははじまってゆく

あなたと
生きようとするなら
あなたとの世界を
みずからのうちに
もたねばならない
そこから
すべてははじまってゆく



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて



わたしのからだは
ちきゅうのはるかな
からだのれきしから
あたえられた

わたしはちっぽけで
みじかいのちだけど
でかくてながい
ちきゅうのいのちと
たしかにつながっている

わたしのこころは
からだからうまれてきたのでは
ないかもしれないけれど
このちきゅうでは
からだがなくでは
こころははたらかない

わたしのこころを
たいせつにすることは
わたしのからだを
たいせつにすること

わたしのからだを
たいせつにすることは
ちきゅうのからだを
たいせつにすること

ちきゅうのからだを
たいせつにすることは
ちきゅうのこころを
たいせつにすることだ



同じと同じが
出会っても
おなじにしかならないが

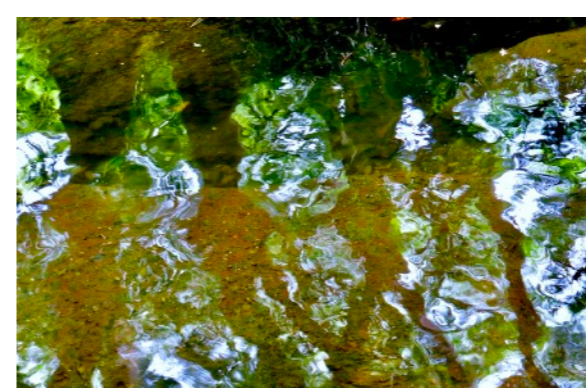
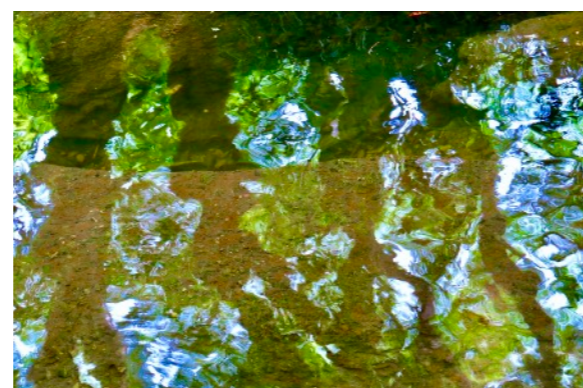
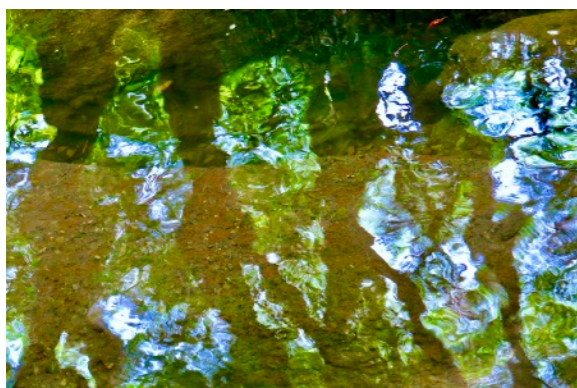
違いと違いが
出会ったら
また別の違いが生まれるだろう

好きと好きが
出会ったら
大好きが生まれるだろうし

嫌いと嫌いが
出会ったら
大嫌いが生まれるだろうが

好きと嫌いが
出会ったら
どんな好き嫌いが生まれるだろう

そんな違いや
好き嫌いが生み出す
たくさんの物語から学ぶために
こうしてわたしたちは
生まれてくるのかもしれない





迷えば
心は乱れるが
そこからしか
はじまらないものがある

新たな道を
みつけるため
迷うときは迷うままに

答えがでないときは
焦りも生まれるが
そこからしか
はじまらないものがある

新たな問いを
みつけるため
焦るときは焦るままに

先が見えないと
不安になるけれど
そこからしか
はじまらないものがある

新たな光を
みつけるため
不安のときは不安のままに



※愛媛県久万高原町・面河溪にて



水と光の
戯れのように

空と鳥の
戯れのように

形と流れの
戯れのように

声と文字の
戯れのように

過去と未来の
戯れのように

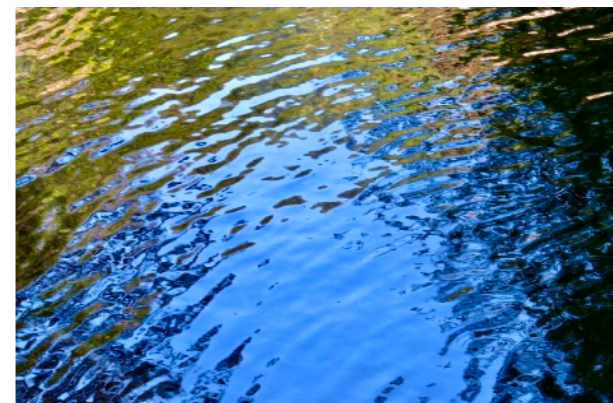
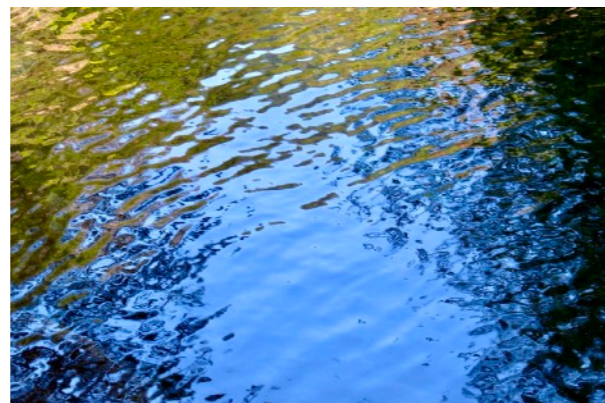
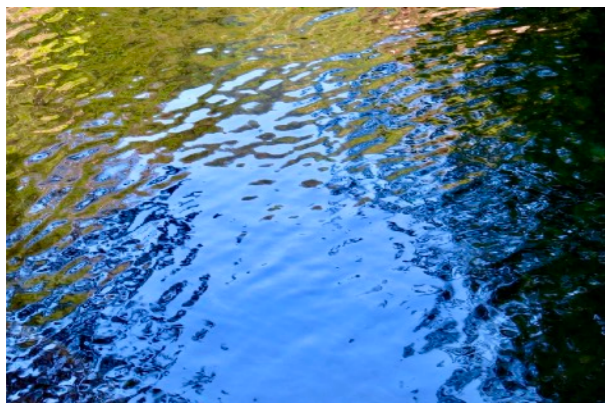
記憶と忘却の
戯れのように

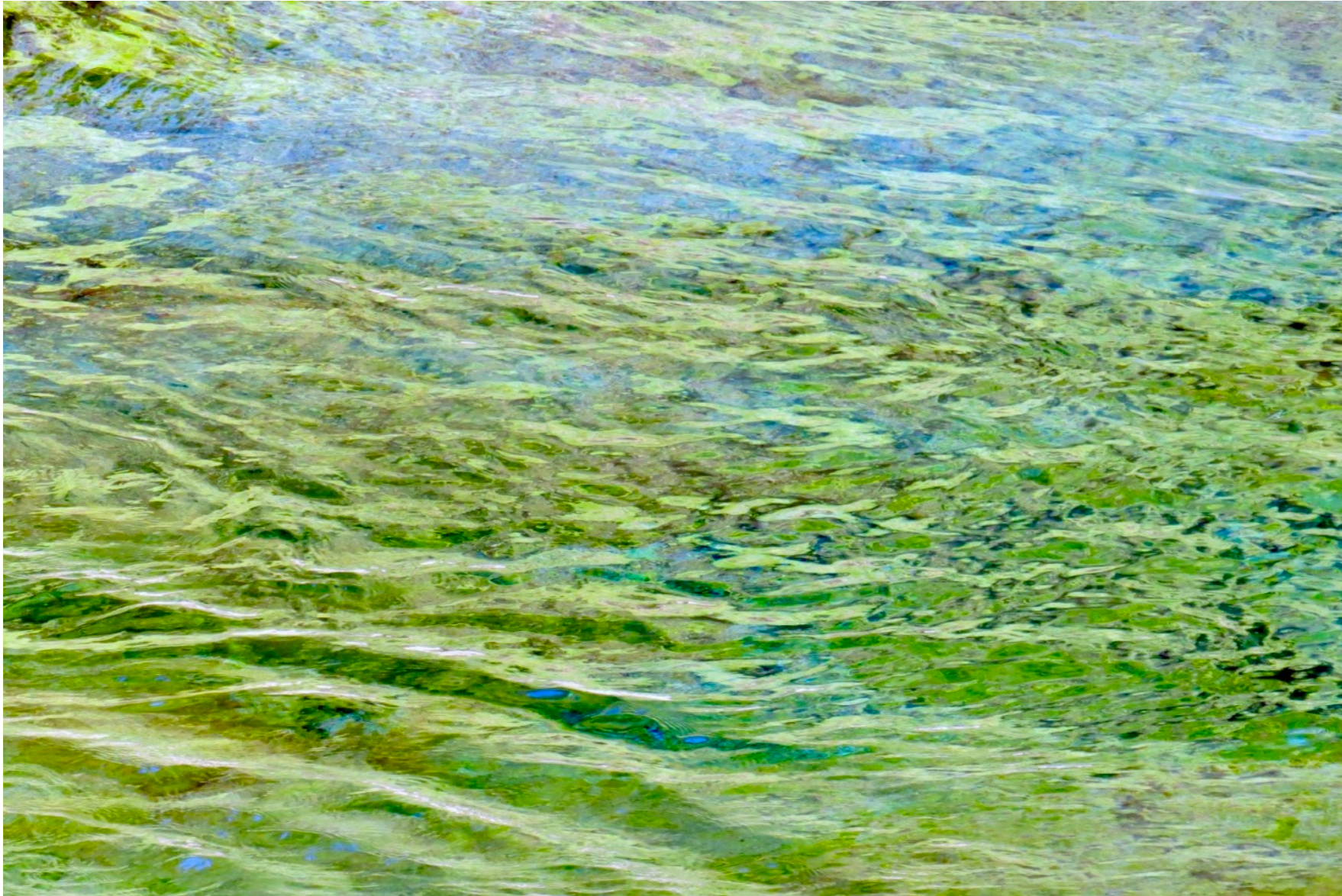
言葉と沈黙の
戯れのように

生と死の
戯れのように

映すものと
映されるものの
合わせ鏡は

メビウスの輪のように
表となり裏となり
照らし合いながら
どこまでもめぐり





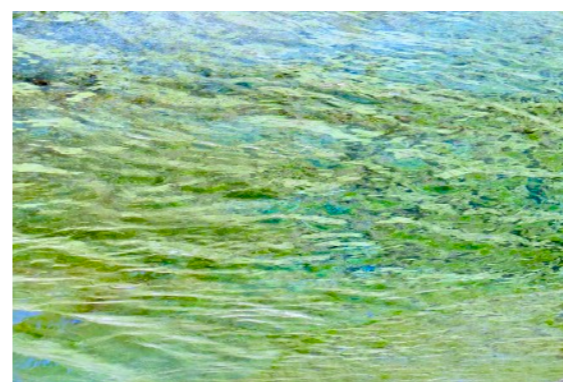
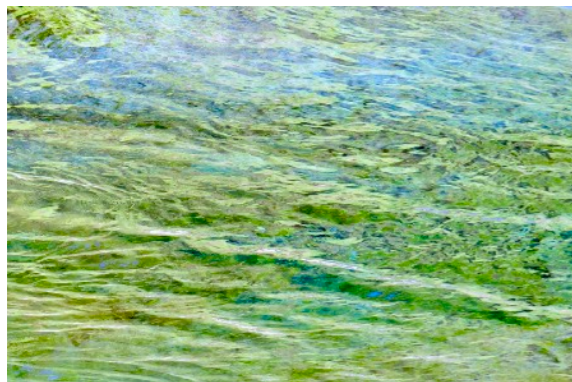
見えないだれかの歩んだ道を
わたしはたどっているのかもしれない
そんなことをふと感じるときがある
アボリジニのソングラインのように

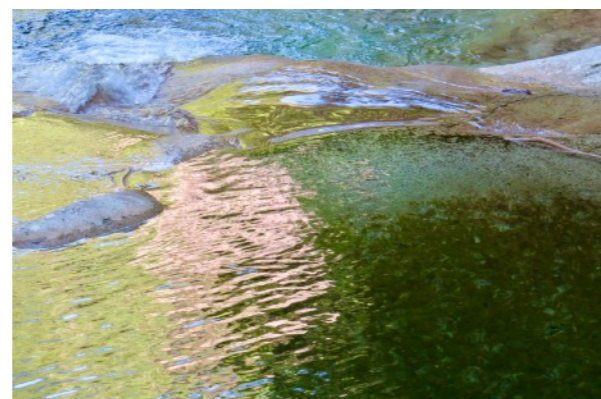
見えないだれかは
いつもわたしのまえに
遠く小さな背中を見せながら
見えない微笑みを浮かべている

それはときに
風の気配や
鳥の声や
苔の肌触りや
懐かしいウタの記憶や
はるかな懐かしい香りで
わたしを呼んでいる

わたしはなにかに誘われるように
そのラインをたどり歩きはじめる
その先になにかがあるのか
なにを求めて歩くのかさえ知らぬまま

けれどほんとうは
わたしは知っているのだ
還るために歩いているのだと
遠いわたしに還るために歩いているのだと





わたしは
だれだろう

問われないとき
わたしはわたしののに
問われると
じぶんがだれなのか
わからなくなる

わたしは
あまりに忘れっぽいから
じぶんをどこかに
置き忘れたのかもしれない

それとも
ここにいるはずのじぶんが
見えなくなっているのかもしれない

もしもし
あなたは
わたしですか

とんとん
あなたは
わたしですか

どこかで
わたしを
みかけませんでしたか

そうしてわたしは
見えなくなっているじぶんを
ひとつひとつ探してゆくのだが

わたしは
だれなのだろう



わたしは
わたしという
ポリフォニーを
生きている

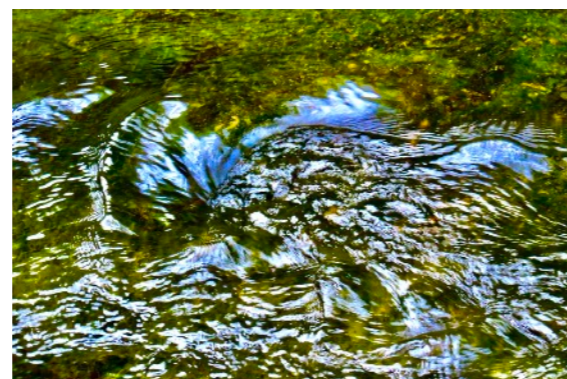
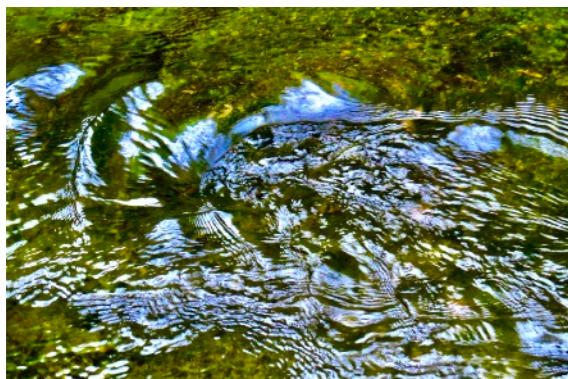
わたしが
いるということ

それは
わたしたちが
そして
せかいが
響きあっているということ

わたしが
わたしたちが
語る時
せかいもまた
語っている

わたしが
わたしたちが
歩くとき
せかいもまた
歩いている

わたしは
わたしたちは
せかいは
そうして
いままさに生まれている





知的でなければならない
というとき
知的でなくなることへの恐れが
ひとを小さな知性に閉じ込める

知性が自由になれますように

理性的でなければならない
というとき
理性的でなくなることへの恐れが
ひとを小さな理性に閉じ込める

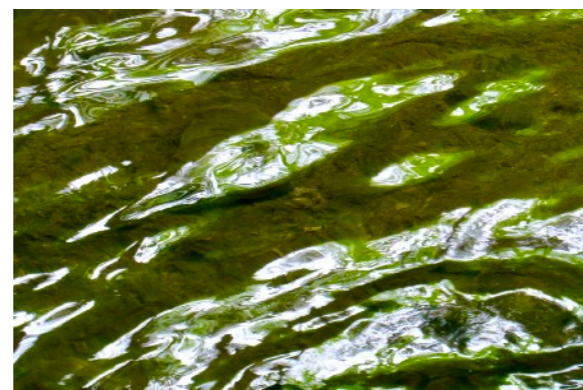
理性が自由になれますように

論理的でなければならない
というとき
論理的でなくなることへの恐れが
ひとを小さな論理に閉じ込める

論理が自由になれますように

わたしはわたしでなければならない
というとき
わたしでなくなることへの恐れが
ひとを小さなわたしに閉じ込める

わたしが自由になれますように



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて



みんなですれば
こわくないこともあれば
みんなですから
こわくなることもある

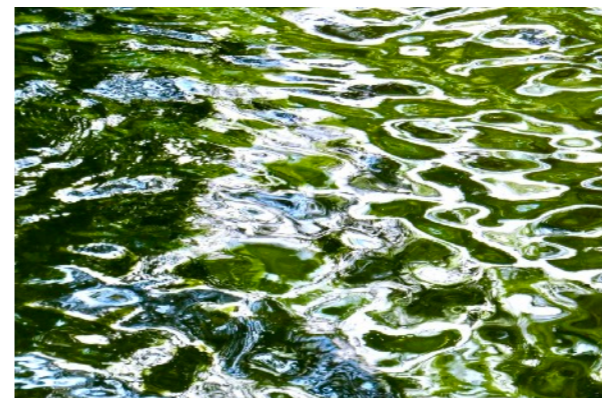
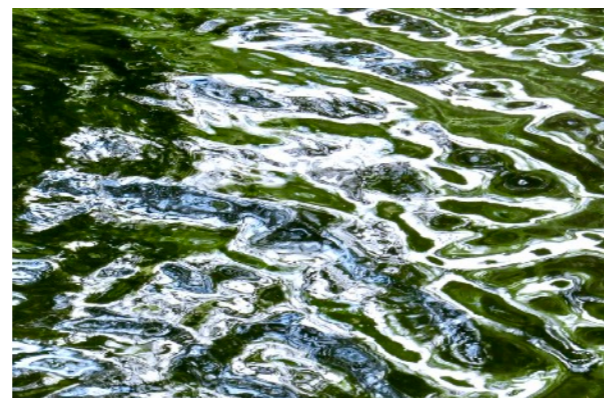
みんなのなかの
わたしでいるときのわたしと
わたしのなかの
みんなでいるときのわたしと

わたしが
わたしでいるときのわたしと
わたしが
わたしでないときのわたしと

ひとりでいけば
あんしんできるときもあれば
ひとりでいるから
ふあんになるときもある

ひとりでいけば
じゆうになれるときもあれば
ひとりでいるから
じゆうでなくなるときもある

とにかく
わたしはむずかしい
みんなも
ひとりも
むずかしい





目のまえにある
これか
あれかを
選ぶよりも

ずっとさきの
矛盾に充ちている理想を
選ぶのがいい

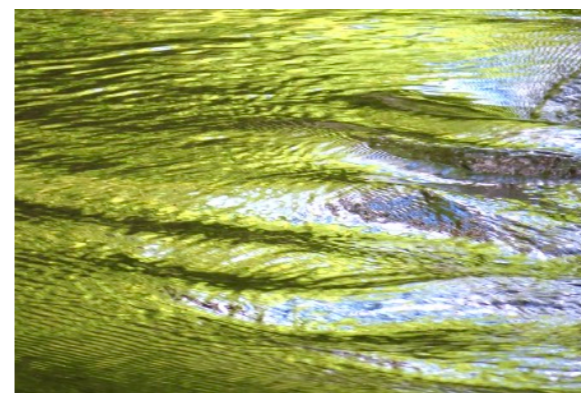
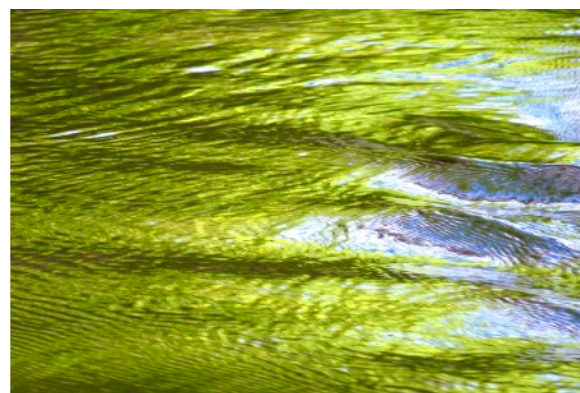
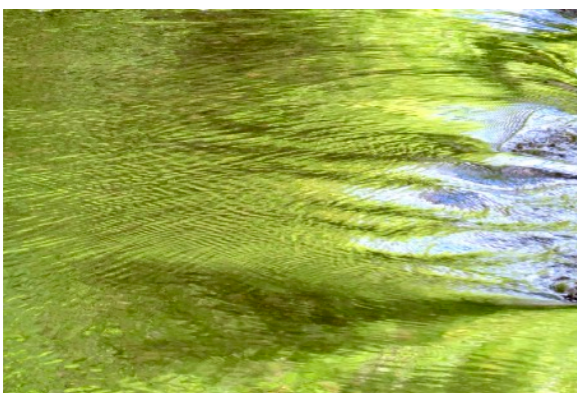
賢き者は
笑うかもしれない

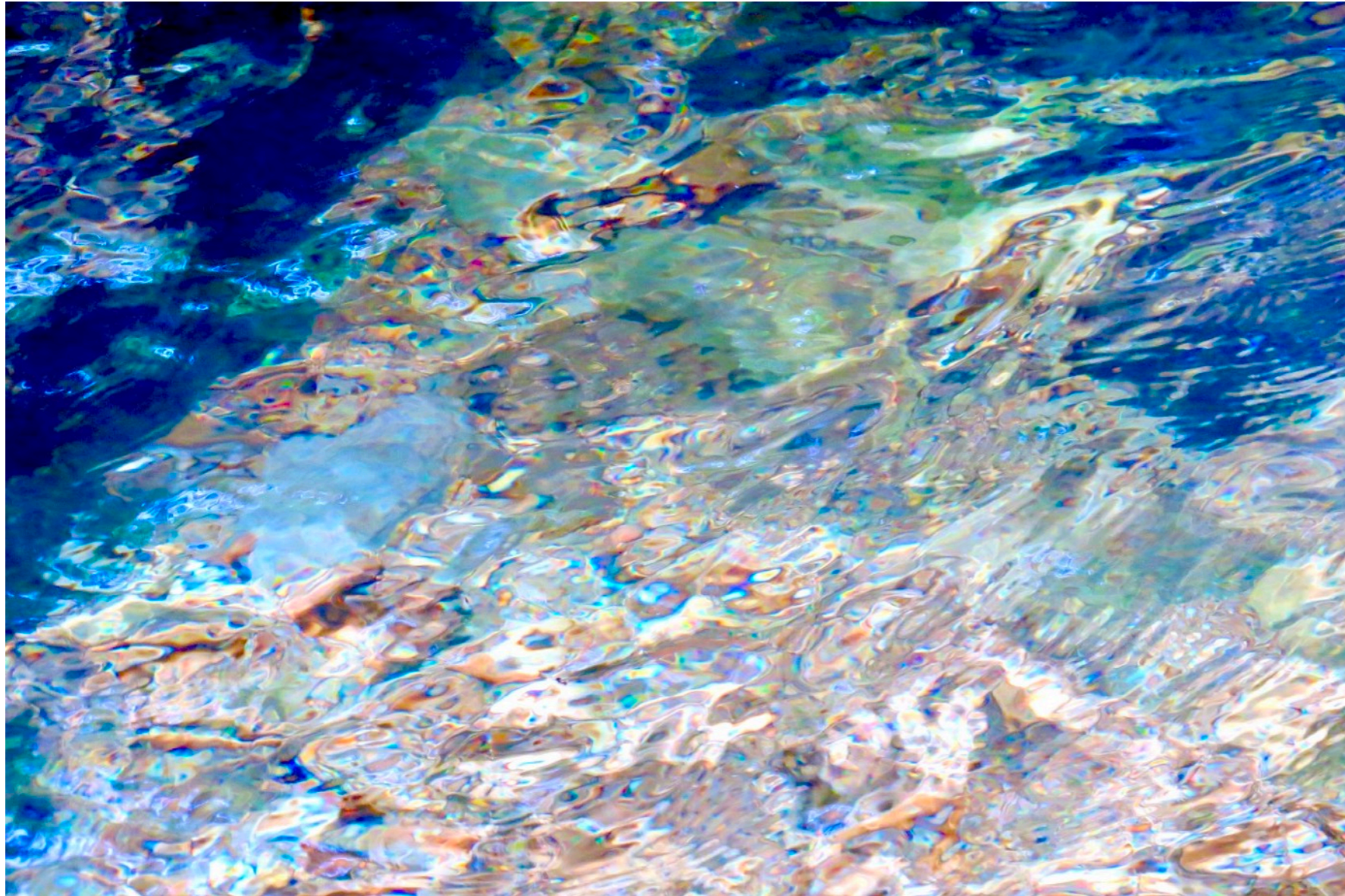
それは
愚か者のすることだ
コメディにすぎないと

けれどみずからを
愚者とする者にしか
矛盾を生きることはできない

理想は多く
矛盾に充ちているが
永遠のレボリューションは
永遠のコメディでもあるからだ

そしてそれこそが
永遠の理想に近づく
唯一の道かもしれない





なぜ
見えるのだろう

わたしのなかに
光があるからだ
と答えるとしようか

ではなぜ
わたしのなかに
光があるのだろう

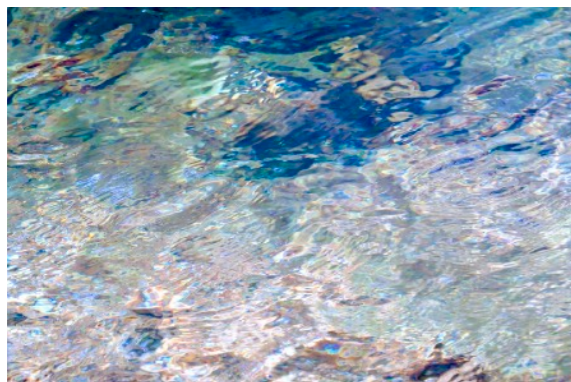
わたしにはすでに
光が与えられているからだろうが
それがいったい何なのか
わからないままで

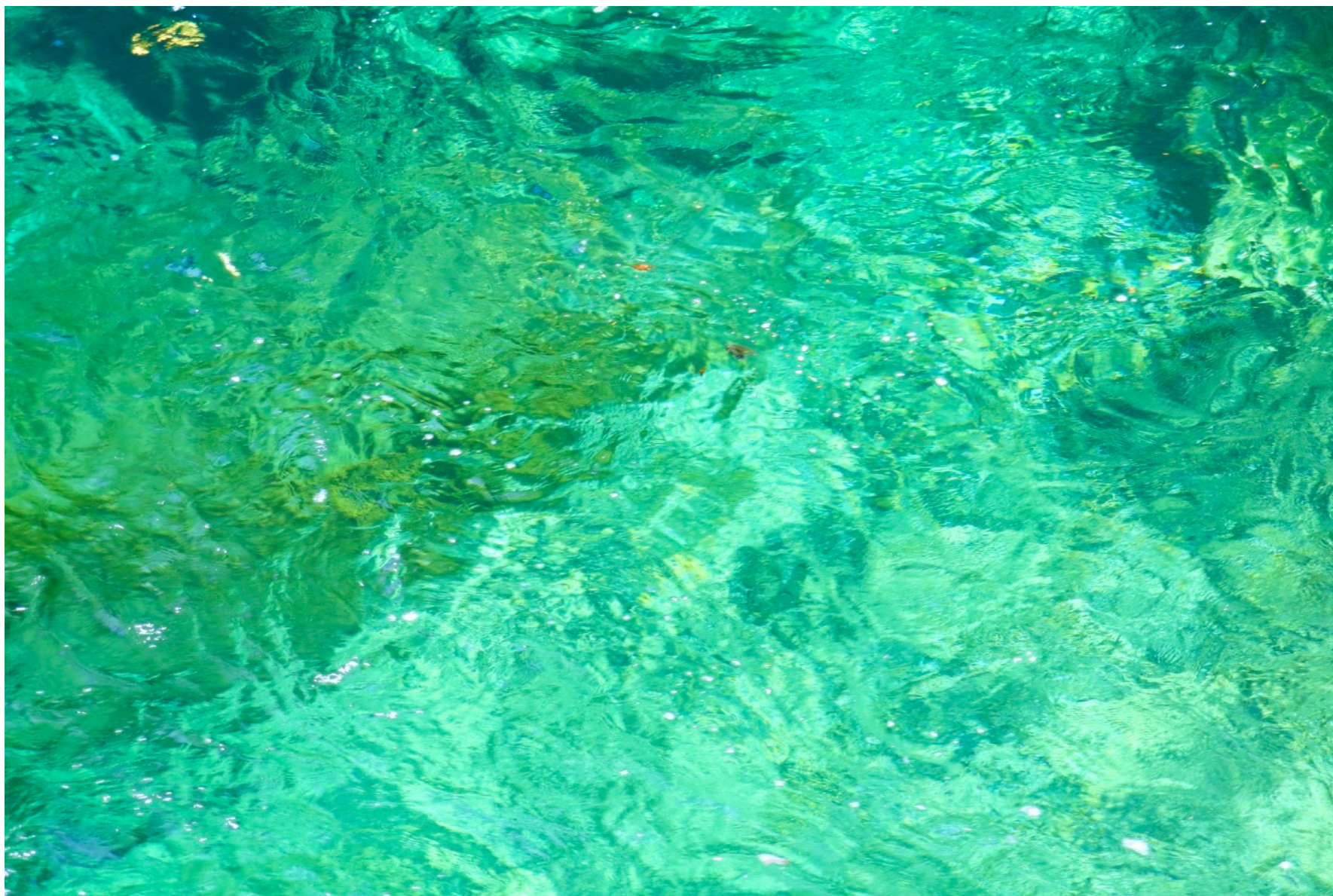
なぜ
好きなのだろう

わたしのなかに
愛があるからだ
と答えるとしようか

ではなぜ
わたしのなかに
愛があるのだろう

わたしにはすでに
愛が与えられているからだろうが
それがいったい何なのか
わからないままで





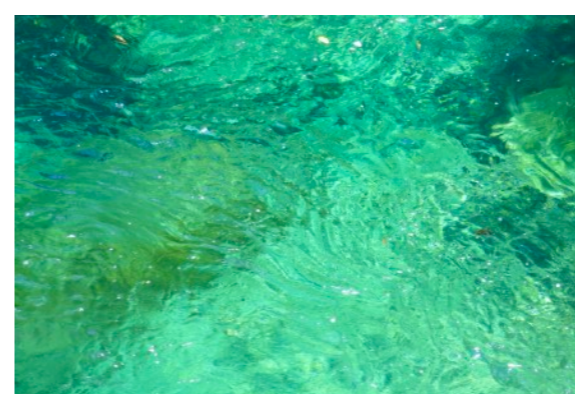
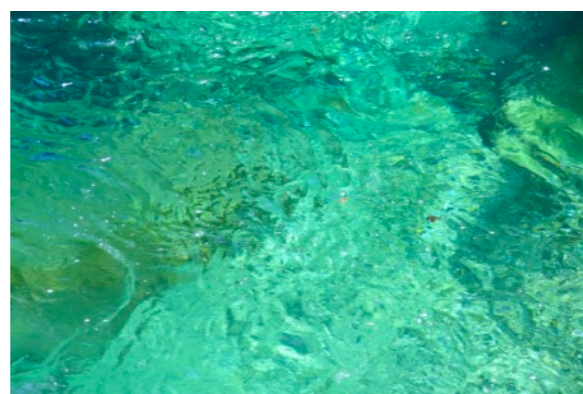
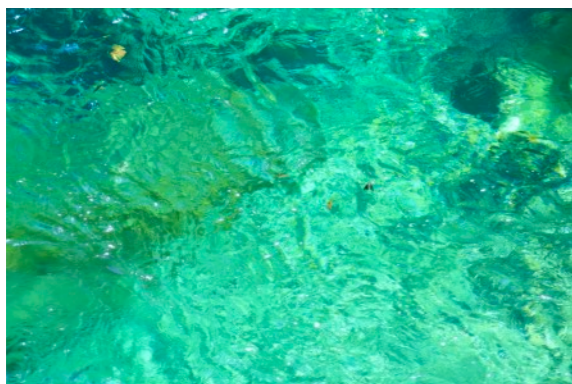
わたしであることの
あまりの重みから

もう
どこへも
行けなくなるとき

すべてのものが
深淵に落ちていくときに
受けとめてくれる掌のように

どこからか
わたしを
呼んでいるような
しずかに
微笑みかけているような

そんな
もうひとりの
わたしがいる





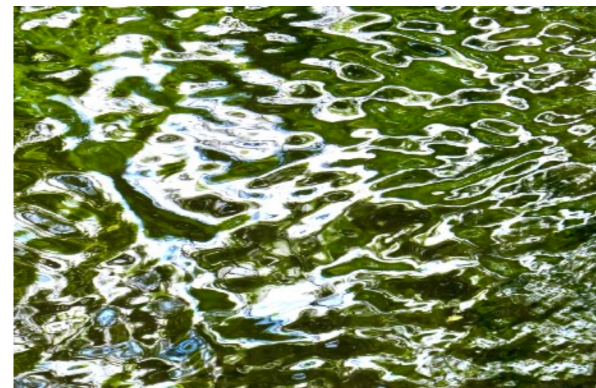
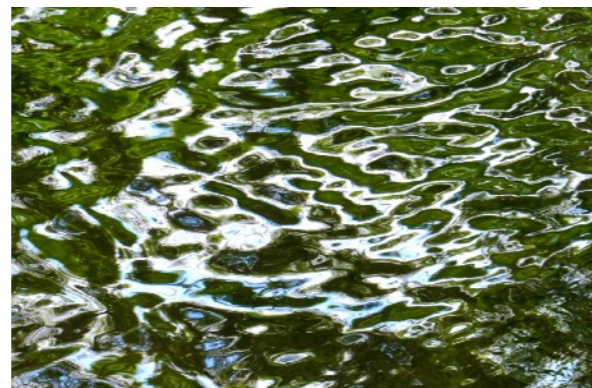
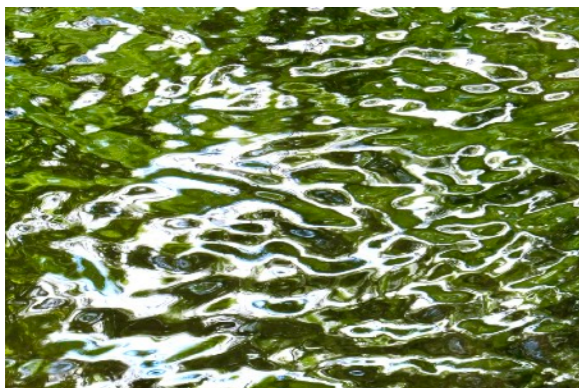
なぜじぶんの目を
じぶんの目で見ることができないのか
それはだれかに
見てもらいたいからかもしれない

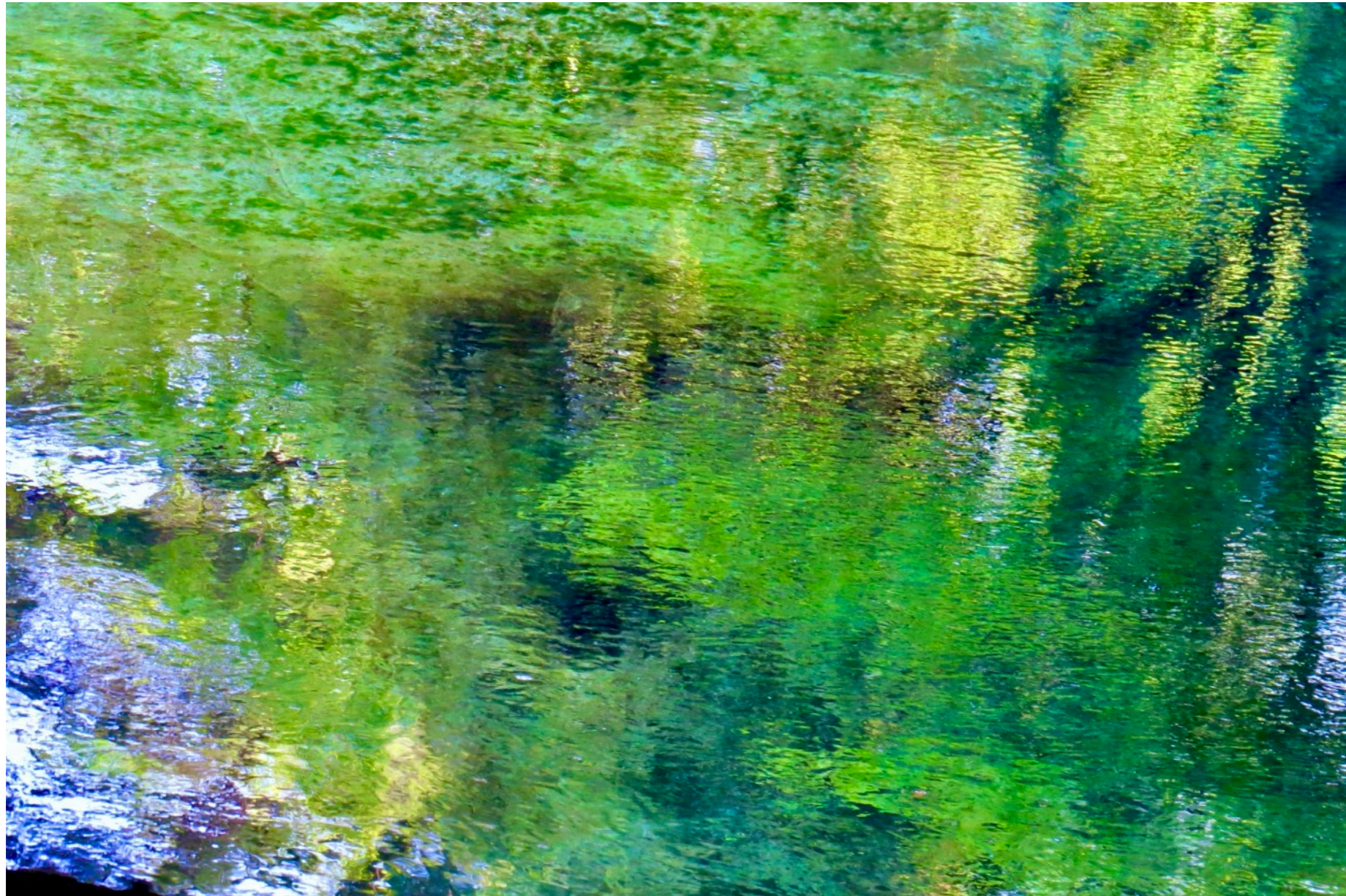
花が咲くとき
ひょっとしたらその咲く花は
だれかに見てもらおうとして
咲いているのかもしれないように

けれど
じぶんの見る世界と
だれかの見る世界は
おなじじゃないから
そこに矛盾が生まれてしまう

じぶんの考えるただしさは
だれかの考えるただしさではないかもしれない
じぶんの感じるうつくしさは
だれかの感じるうつくしさではないかもしれない

わたしたちはそんな矛盾を
ともに生きていかねばならない
じぶんのなかに矛盾ゆえの
闇をさまざまにつくりだしながらも
その闇から目を逸らすことなく





感覚なくして
世界とともに
あることはできない

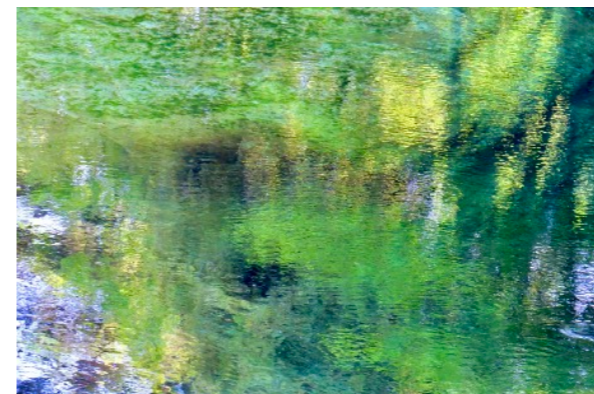
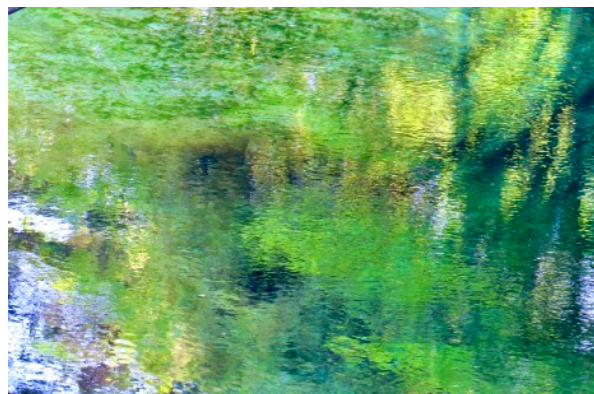
そして感覚は
すべて直に
そこでふれあっている

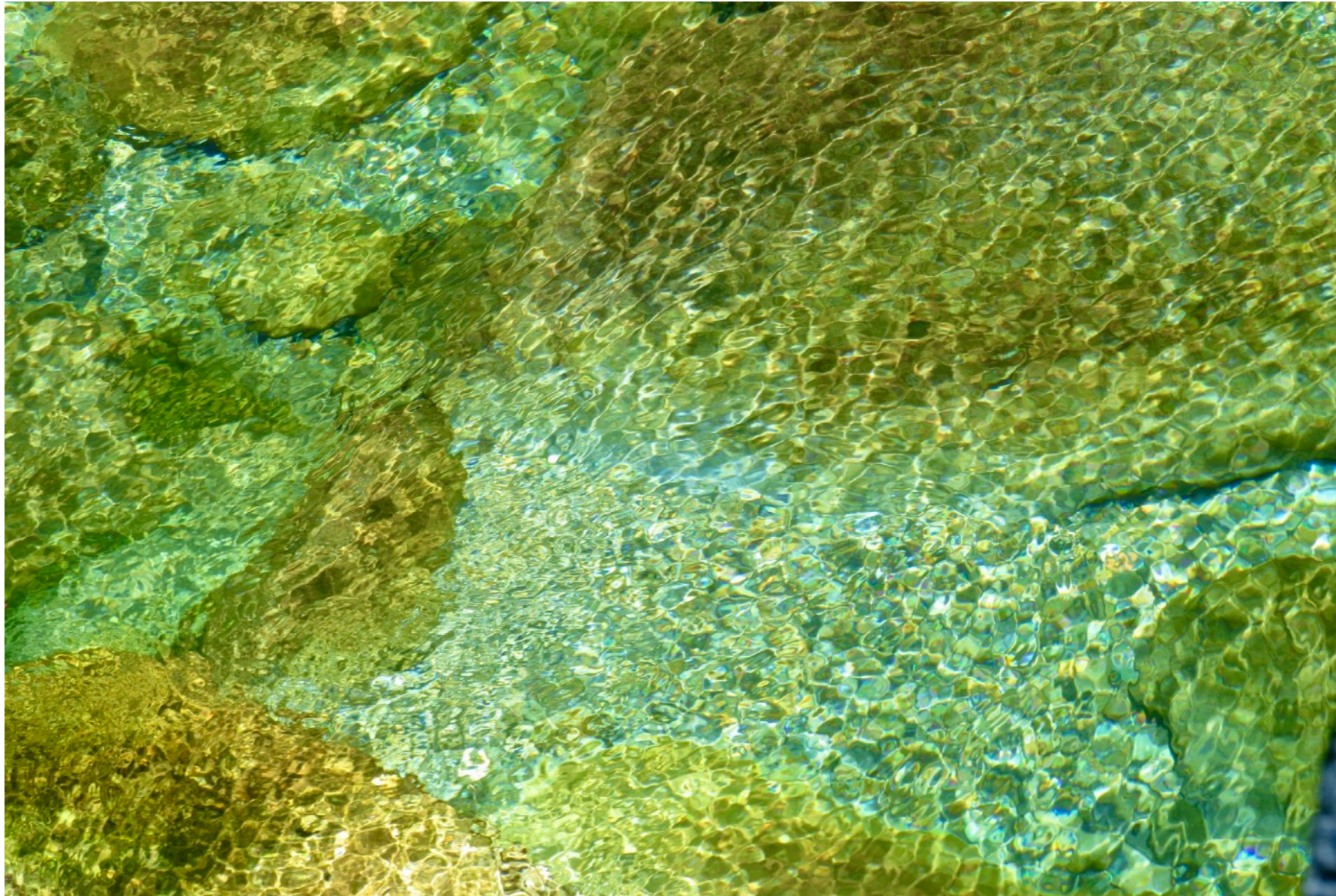
食べることは
食べられるものを味わい
嗅ぐことは
嗅がれるものを嗅ぎ
ふれることは
ふれられるものにふれ

聴くことは
聴かれるもののところで
ともに共振することであるように
見ることもまた
見られるものをつかんでいる

そのように
考えることも感覚にほかならない
考えることは
見えない内在平面で
みずからの思考を生きることだからだ

私たちは
感覚を深めることで
世界とともにあり
そのことで
ほんとうは隠されてはいないはずの
世界の秘密を感じとることができる





水と
対話する

水となって
流れ
燦めき
映され
澱み

水とともに
変容し

感情と
対話する

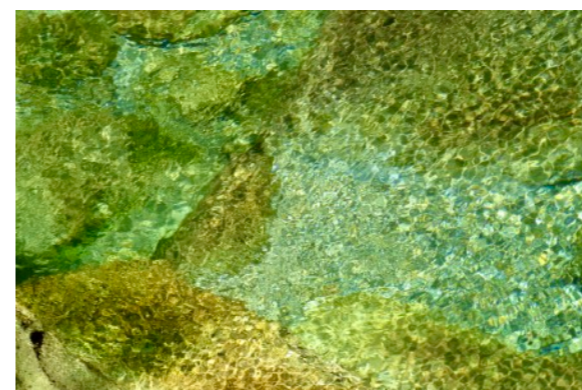
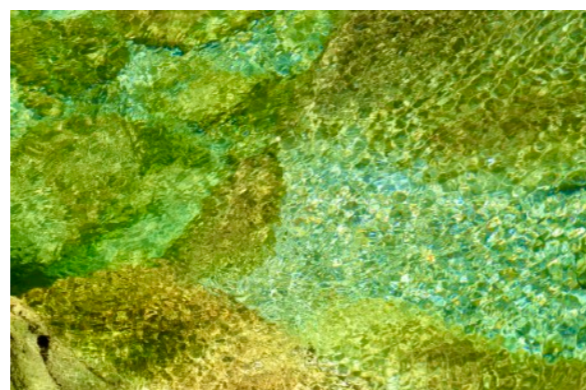
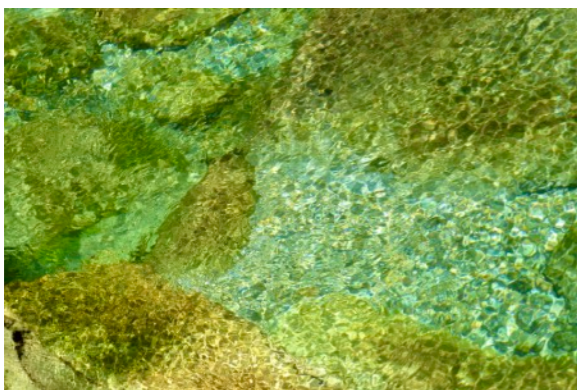
感情となって
喜び
怒り
哀しみ
楽しみ

感情とともに
変容し

道と
対話する

道となって
歩き
立ち止まり
分岐し
なき道を開き

道とともに
変容し





憎しんで
憎しみは超えられない
超えるためには
憎しみを悲しむ勇気がある

怒りで
怒りは超えられない
超えるためには
怒りを笑う勇気がある

怖れで
怖れは超えられない
超えるためには
怖れを呑み込む勇気がある

迷いで
迷いは超えられない
超えるためには
迷いを愉しむ勇気がある

愚かさで
愚かさは超えられない
超えるためには
愚かさを見据える勇気がある



※愛媛県久万高原町・面河溪にて